

を応援しよう

世代選手インタビュー

① 生い立ちとさいたま市との関わりについて教えてください

見沼区で生まれてからずっと過ごしてきた「ザ・地元」です。兄（元・浦和レッズの大山俊輔さん）の影響から小学1年生で浦和レッズのスクールに通い始めました。途中で大宮アルディージャの下部組織である大宮ストライカーに移り、今に至っています。兄弟そろってさいたま市のクラブに所属できたのは光栄ですね。

② 昨シーズンを振り返って

新型コロナウイルスの影響でシーズンが中断したり、観客数の制限がかかったりと異例でした。外出できないせいで、肉体的よりも精神的にきつかったですね。ただ、少しでも気分転換できるように、自宅で子どもと遊んだり読書をしたり、生活を見直すきっかけになりました。

③ 思い入れのある地元での活動は

入団してからずっと自主的に続けている、ろう学校でのサッカー教室です。生徒とサッカーを楽しむ恒例行事で、それが「手話応援デー」（4ページ）につながっているのは嬉しいです。イベントにやりがいを感じるのは、クラブやサッカーに興味がなかった参加者が観戦に来てくれること。選手も主体的に関わることで、地域のために何ができるかを考えるきっかけになっています。

④ コロナ禍で選手としてできることは

いい試合をすること、勝つことに尽きます。昨シーズンは十分に勝てなかったのが悔しい。ほかの選手と勝つための戦略を練る場所はロッカー。それがコロナ禍でロッカールーム内に仕切りができ、できなくなったんです。代わって練習や試合が終わった後はピッチで話しながら、課題を解決するようにしています。選手としてできることはもう一つ、もっと人気を得ること。スター選手がまちを歩いていると、応援したくなりますよね。さいたまが「サッカーのまち」としてより注目されることにもなるはず。自分もそういう選手になれるよう頑張ります。

⑤ プライベートでも仲が良いという関根選手との交流や思い出は？

小学生のときは埼玉県で知らない人はいないというくらい実力が突出していましたね。当時は雲の上の存在です。深い付き合いをするようになったのはU-18の日本代表になってから。独身時代は毎週のように2人で銭湯に行ってから食事をしてましたね。関根選手のドリブルのキレや思い切りの良さは真似できない。2、3人相手でも突っ込むメンタリティの強さはすごいと思います。



大宮アルディージャ
ミッドフィールダー

お
お
や
ま
け
い
す
け
大
山
啓
輔
選
手
(25)

OMIYA ARDIJA

大宮アルディージャ



さいたま市をホームタウンとする日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)所属のサッカークラブ。設立は1998年12月4日。前身は1969年創部のNTT関東サッカー部。ホームスタジアムはNACK5スタジアム大宮(収容人数は1万5,500人)。クラブ名の「アルディージャ」とはスペイン語でリスを意味する「Ardilla」を読みやすくした造語。リスは旧大宮市が1990年の市制施行50周年記念で定めたマスコット。エンブレムにはそのリスを大きく配置。盾形になっているリスの尻尾は固い守備力とバランスを、ボールから伸びる5本のストライプはスピードに乗った攻撃力やリスの縞模様などを意味しています。

チームの中心となり一緒に昇格を!

OYAMA'S COMMENT いつも大宮アルディージャをご支援いただきありがとうございます。プロ8年目、チームの中心となり士気を高めていきたいです。コロナ禍で大変な日々が続きますが、皆さんと一緒に昇格を掴み取りたいと思います。



@omiya.ardija

@Ardija_Official

<https://www.ardija.co.jp/>

リーグ開幕! 地元のチーム

さいたま市ゆかりの同

浦和レッドダイヤモンズ
ミッドフィールダー

関根貴大
選手
(25)

1 生い立ちとさいたま市との関わりについて教えてください

さいたま市と関わりができたのは中学1年生で浦和レッズのアカデミー（浦和レッズのコーチから指導を受けられるチーム）へ加入してからのため、今年で13年ですね。高校生で寮に入ってから浦和に住んでいます。さいたま市の印象はサッカーが熱いまち、特に浦和はそんな印象が強いです。

2 昨シーズンを振り返って

個人としては苦しかったですね。新型コロナウイルスの影響でシーズンが中断してコンディションを保つのが難しかったことに加え、怪我も多かったためです。なかなか結果を残せなかった。自分の思い描いているようにならなかった。一方、クラブとしてはファン・サポーターに支えられました。無観客のスタジアムに「ビジュアル（観客席の装飾による応援）」を出してもらえたことでモチベーションがあがりました。また、観客数の制限でクラブの運営が苦しくなるなか、その費用をクラウドファンディングで募ったところ数多くの人が応えてくれて達成できました。ファン・サポーターには感謝しきれない年でした。

3 思い入れのある地元での活動は

加入2年目から関わっている小学校でのサッカー教室です。サッカー選手は夢を与える仕事なので、子どもにとって刺激になればいいと思っています。コロナ禍で開けないのが残念ですが、今後は増やしていきたいですね。

4 コロナ禍で選手としてできることは

よりよい結果を残すことに尽きます。個人としてはゴール数やアシスト数など数字を追究したいです。チームとしては昨シーズンよりもいい順位に上がることが大事。そのためにはシーズン前にどれだけ自分のからだの準備ができるか。怪我が多かったので、怪我しない身体づくりを。いい形でコンディションをあげられてきているので、そこをしっかりとやっていければいいかなと。

5 プライベートでも仲が良いという大山選手との交流や思い出は？

仲良くなったのは高校3年生でともにU-18の日本代表になってから。特に印象に残っているのは、僕が海外に移籍する前の最後の試合で大宮アルディージャと対戦したこと。大山選手と一対一になったら、勝負を仕掛けるつもりで挑みました。ピッチで互いにプライドを持って闘えたのは嬉しかったし、終わった後に人生で初めてユニフォームを交換したのはいい思い出です。

自分の思い描くようなシーズンを!

SEKINE'S COMMENT 今シーズンから新たな監督が就任しました。昨年から積み上げてきたものを継続させ、チームとして結果に結び付けられるシーズンにしたいです。個人的には自分の強みを出して、自分の思い描くようなシーズンを過ごしたいですね。



@REDSOFFICIAL
urawarediamonds
<https://www.urawa-reds.co.jp/>

URAWA RED DIAMONDS

浦和レッドダイヤモンズ (通称・浦和レッズ)

さいたま市をホームタウンとする日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)所属のサッカークラブ。設立は1992年3月10日。前身は1950年創部の三菱重工業サッカー部。ホームスタジアムは埼玉スタジアム2002(収容人数は6万3,700人)と浦和駒場スタジアム(同2万1,500人)。クラブ名の「ダイヤモンド」は強さや固い結束力を意味しています。クラブエンブレムが表現するのは「ひとつのボールにみんなが集まる。ひとつのボールからみんなの話題や喜びが生まれ、仲間意識、友情の輪がひろがって、世界とつながる。」J1リーグ、Jリーグカップ、天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会の国内三大タイトルを獲得し、AFCチャンピオンズリーグも2度制覇しています。



大宮アルディージャは平成19年から毎年10回ほど、市内の公民館で介護予防プログラムの一環で開催されるストレッチ教室に講師を派遣しています。主に、ストレッチによる老化防止の運動、運動機能を向上させる筋トレ、有酸素運動、正しい姿勢での歩行の仕方について学びます。



公民館で
インストラクターと
ストレッチ！

400回以上続く
大宮クリーン
大作戦！



大宮アルディージャは毎月第4金曜日（大宮区共同開催）とホームゲームの開催日に、大宮区で清掃をする「大宮クリーン大作戦」を展開しています。中でも毎年5月下旬には「ごみゼロの日」に合わせて地域住民やパートナー企業も参加して盛大に行います。

じゃない！
躍も必見！

PROGRAM



スポーツの楽しさや
仲間との絆の大切さを伝える
スクールキャラバン

大宮アルディージャは「スクールキャラバン」を展開しています。コーチが平日の午前中に西・北・大宮・見沼・岩槻区の保育園や幼稚園、小学校を訪問。サッカー教室を開くほか、参加者をホームでの試合に招待します。

さいたまのサッカー
コミュニティが大集結！

さいたま市が浦和レッズと大宮アルディージャと共同で、平成29年から毎年開催する「さいたまサッカーフェスタ」。浦和駒場スタジアムとNACK5スタジアム大宮を隔年で会場とし、両クラブスタッフ等と交流を図りながらサッカーを「する」「まなぶ」ほか、両クラブ歴代名選手OBによるスペシャルマッチの観戦など、サッカーの魅力を総合的に体験できるイベントです。

誰もが
サッカーでつながる場
手話応援デーに
参加しよう！



大宮アルディージャのホームゲームで年1回開催される、障害のある方もない方も手話と一緒に応援する「手話応援デー」。「サッカーの応援も、ノーマライゼーション」を合言葉に平成18年に始まりました。令和2年までに12回実施した継続性が認められ、全国56クラブの社会連携活動を表彰する「Jリーグシャレン!アウォーズ」の「ソーシャルチャレンジャー賞」を受賞しました。

まずは歴史を総ざらい！

サッカー王国さいたまの発祥

写真：細木正志氏所蔵



写真：浦和博物館所蔵

さいたま市にサッカーが持ち込まれたのは113年前、教員の細木志朗氏によります。「蹴球」と呼ばれたサッカーを東京師範学校で学んだ細木氏は、明治41年7月に現在のさいたま市役所の敷地内にあった埼玉師範学校（現在の埼玉大学教育学部）に着任すると、蹴球部を創設しました。その教えを受けた教員がほかの学校で指導に当たり、県内にサッカーが広がったのです。埼玉師範学校は昭和6年に関東中学校蹴球大会で初優勝を飾り、翌年から全国中等学校蹴球大会の常連校に。同12年には全国優勝を果たしました。浦和レッズのエンブレムには、埼玉師範学校の校舎「鳳翔閣」が、県内サッカーの始まりのシンボルとして描かれています。

壊滅的な
打撃から復活!
レッズランドの今!?



令和元年10月に関東地方を襲った台風第19号。スポーツを愛する人たちが集うレッズランドは水没により壊滅的な打撃を受けました。選手・後援会の募金活動やボランティアなど多くの方々の支援により徐々に復活。「スポーツで夢あふれる未来」へ向かって再び歩みを進めています。

ホームタウンに
「Reds Rose」を
咲かせよう!



世界で初めてサッカークラブの名前が付いたバラ「Reds Rose (レッズローズ)」。平成22年に誕生し、“バラのまち中央区”をはじめ県内各地の公園や学校などで植栽活動を実施しています。行政や地域の方々との協働により、幸せなまちづくりに貢献しています。

試合だけ 地元での活

浦和の風物詩!
バナーフラッグに込めた
サッカーのまち
への熱い想い



浦和のまちを赤く染める街路灯バナーフラッグ。例年はクラブが製作していますが、昨年はコロナ禍で商店街が厳しい状況にあることを知った選手らが、「まちを元気づける」ために資金を出し、自らデザインしたバナーを市内各所に掲げました。

※現在は東京2020大会のバナー等に切り替わっています。

今月の表紙

選手にエールを!
まちにエールを!
Jリーグチームのある
まちと一緒に
盛り上げよう!



読者プレゼント!

関根選手と大山選手のサイン色紙を
抽選で各3人にプレゼントします!

応募方法

はがき(1人1通のみ)に、郵便番号・住所、氏名、電話番号、サイン色紙を希望する選手名、市報の感想を記載して、以下の送り先へ。
※市ホームページでも申し込めます。

送り先

〒330-9588 浦和区常盤6-4-4
広報課 サイン色紙プレゼント係
3月15日(月)まで ※消印有効



※当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。



元日本代表 落合キャプテン直伝 スポーツに一番大切な「こころを育む」 ハートフルクラブ

浦和レッズは「ハートフルクラブ」を展開しています。浦和・緑・南・桜・中央区の小学校を中心に行う「小学校授業サポート」では、6年生の授業の一環として、スポーツの楽しさや思いやりの大切さを伝えています。

SOCCER FESTA



◀ Jリーグ開催情報は19ページへ!

2/26
開幕

市報さいたまの感想を「#市報さいたま」をつけてTwitterで投稿してください!
市ホームページやはがき(〒330-9588 浦和区常盤6-4-4 広報課)でもお待ちしております。